

# 米朝首脳会談の意義と 今後の課題

2018年7月 REC-PP-07

鈴木 達治郎	センター長・教授
広瀬 訓	副センター長・教授
吉田 文彦	副センター長・教授
梅林 宏道	客員教授

※本稿で述べている見解は、筆者個人のものであり、筆者が属する組織を代表するものではありません。

## 目 次

はじめに	・・・・・・・・・・	鈴木 達治郎
要旨	・・・・・・・・・・	吉田 文彦 P. 1
1. 非核化の検証制度化に向けて・・・		鈴木 達治郎 P. 5
2. 朝鮮戦争終結と平和条約への道筋・・・		広瀬 訓 P. 12
3. 北東アジアでの新しい「平和の制度化」にむけて		吉田 文彦 P. 17
4. 「北東アジア非核兵器地帯化」実現への新局面		梅林 宏道 P. 24

### 付録

「板門店宣言」(2018年4月27日)

「米朝首脳会談共同声明」(2018年6月12日)

## 米朝首脳会談の意義と今後の課題

### はじめに

2018年1月に発表された米雑誌 *Bulletin of Atomic Scientists* の「終末時計」は1953年以来の「2分前」という極めて深刻な状況であったが、その最大の理由として挙げられていたのが、北朝鮮の核・ミサイル開発をめぐる北東アジアの緊張状態であった。それから半年の間に、朝鮮半島情勢は歴史的な転換点を迎えた。4月の南北朝鮮首脳会談（「板門店宣言」）、6月の米朝首脳会談について RECNA は直後にその歴史的な意義を強調する見解を発表したが、同時にこの流れを非可逆的なものとするためには多くの課題があることも指摘した。それを受けて、RECNA の教授陣がそれぞれの専門分野から、米朝首脳会談の意義と課題について分析・解説し、吉田文彦副センター長・教授に取りまとめをお願いしたのが、本 *Policy Paper* である。今後の朝鮮半島の非核化、そして北東アジアの非核化と平和を目指す動きを見るうえで、少しでも参考になれば幸いである。

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）

センター長・教授 鈴木 達治郎